

# 地 方 大 賣 捌

大阪市備後町	吉岡書店
大阪市備後町	小谷書店
京都市河原町通り	大黒屋書店
京都市寺町通り	若林書店
名古屋市鐵砲町	三輪書店

## 刑法論各論正誤

六八	「住民」ヲ「住所」トス	二二四	「打勝タル」ヲ「打勝タルタル」トス	二三七	「依テ」ヲ「於テ」トス
一八	「官ハモル」ヲ「官ハサ」トス	二二五	「關行」ヲ「暴行」トス	二六三	「行使セサル」ノ下ニ
二二	「罵言」ヲ「罵詈」トス	二二八	「擧テ擧ケ」ヲ「擧テ擧ケ」トス	二六七	「者」ノ一字ヲ加フ
二七	「常事犯」ヲ「常事犯」トス	二二九	「誤謬」ヲ「誤認」トス	二七五	「百八十六條ハ」ヲ「百八十六條ニ」トス
二八	「平時」ヲ「平和」トス	二七九	「クツゲンハイメル氏」	二七九	「意思」ヲ「目的」トス
三七	「本條件」ヲ「本條特」トス	一七七	「ヘルシユネル氏」ヲ可トス	二八九	「關係」ヲ「關係」トス
三六	「此文字」ヲ「斯ル文字」トス	一八二	「合加ス」ヲ「附加ス」トス	三〇四	「以下」ノ下ニ「本」ノ一字ヲ加フ
三九	「燒燬」ヲ「燒燬」トス	一八三	「別加刑」ヲ「附加刑」トス	三一〇	「又訴狀」ヲ「其訴狀」トス
四〇	「制止セサルコト」ヲ「制止セサルコト」トス	一九三	「其監視者」ヲ「被監視者」トス	三一〇	「認ム」ヲ「認メ」トス
四一	「職務執行」ヲ「職務執行」トス	二〇七	「其」ノ下ニ「他」ノ一字ヲ加フ	三一〇	「認ム」ヲ「認メ」トス
四二	「官吏ニアラサラス」ヲ「官吏ニアラサラス」トス	二一三	「前」ヲ「現行」トス	三一〇	「アロッドマン氏」
四五	「撰任ヲ以テ」ノ五字ヲ削ル	二一三	「此」ノ一字ヲ削ル	三二〇	「シヤンカ氏」ヲ可トス
四八	「官吏カ」ヲ「官吏ハ」トス	二二四	「二人以上」ノ下ニ「テ」ノ一字ヲ加フ	三二二	「文」ノ下ニ「書」ノ一字ヲ加フ
五一	「本案」ヲ「本條」トス	二三三	「嘱託」ノ下ニ「氏名」ヲ「三字ヲ加フ	三二四	「文」ノ下ニ「書」ノ一字ヲ加フ
五二	「客觀的ノ」ヲ「客觀的」トス	二三七	「處罰セ殿」ヲ「處罰セ」トス	三二五	「公訟」ヲ「公證」トス
					「私文」ヲ「私文書」トス

三二七	一二	Beweisunketteヲ可トス	三八八	四	トス	五二〇	一二	守者又ハ護送者トス
三三三	六	「作」ヲ「詐」トス	四〇四	二	「公正證書」ノ下ニ「ノ」	五二四	七	「官吏公吏」ヲ「官吏公
三三五	四	「者」ハ「ナ」例ヘハト	四〇五	一	「作製」ヲ「偽造」トス	五四七	七	「知ラサルモノ」ノ下ニ
三三七	九	「債權者カ」ヲ「債權者	四〇六	五	「同條ニ」ノ「ニ」ノ一字	五八九	七	「ナル」ノ二字ヲ加フ
三三七	一	「場合ニ」ヲ「場合」ト	四〇六	五	「場同」ヲ「場合」トス	五九五	四	「刑責」ヲ「罪責」トス
三三八	三	「又ハ」ノ二字ヲ削ル	四一一	六	「偽造」ハ「文書偽造」ヲ	五九五	一	「殺人罪」ヲ「殺人罪」ト
三三八	三	「又ハ」ノ二字ヲ削ル	四一一	六	「偽造」ハ「文書偽造」ヲ	五九五	一	「殺人罪」ヲ「殺人罪」ト
三四〇	二	「對」ヲ「違」トス	四三一	九	「名義」ヲ「詐リ」ヲ「名義	六〇三	三	「藏著」シ「ル」ヲ「藏著
三四三	二	「或ハ」ヲ「或ル」トス	四三一	九	「詐ル」トス	六〇七	三	「シタル」トス
三四五	二	「アラサルヤ」ヲ「アラ	四三一	〇	「行爲」ノ「ミ」ヲ「行爲	六一二	二	「稱人」ヲ「個人」トス
三四六	五	「發」ヲ「受」トス	四三六	三	「行爲」ノ「ミ」ヲ「行爲	六一九	二	「被疑者」ヲ「被疑者」ト
三四九	七	「變造」ノ下ニ「ハ」ノ一	四四一	三	「行爲」ノ「ミ」ヲ「行爲	六二〇	二	「犯人」ヲ「科ス」トス
		字ヲ加ヘ「部」タルノ	四四九	五	「行爲」ノ「ミ」ヲ「行爲	六三〇	八	「類」ヲ「數」トス
		下ニ「ガ」故ニ「三」字ヲ	四四九	五	「行爲」ノ「ミ」ヲ「行爲	六三三	一	「自體」ヲ「身體」トス
		加フ	四五〇	八	「欺人」ヲ「詐人カ」ト	六四二	一	「開始」ヲ「開始」トス
三五一	一〇	「内」ヲ「中」トス	四五〇	八	「訊問」ヲ「訊問」トス	六四二	一	「行爲」ノ下ニ「者」ノ一
三五三	一三	「欺罔」ヲ「欺罔」トス	四五四	〇	「訊問」ヲ「訊問」トス	六六六	三	「條件」ヲ「各條」トス
三五五	一三	「故」ヲ「常」トス	四六七	七	「輕過」ヲ「輕過」トス	六六九	三	「マイエル氏」ヲ「可トス
三五九	六	「就」ヲ「於」トス	四八五	一	「存在」セザルヲ「存	六七八	一	「客體ヨリ」ヲ「客體タ
三六一	七	「職務」ヲ「關係」トス	四八五	一	「在セザルヲ」トス	六八三	一	「保存」ヲ「併存」トス
三六九	一	「異ナルヘケ」ヲ「異ナ	四九一	二	「賣買」ニ「供リ」ヲ「賣買	六八九	五	「本罪」ヲ「本條」トス
三六九	一	「異ナルヘケ」ヲ「異ナ	四九一	二	「依リ」トス	七一一	〇	「得サルカリ」ヲ「得サ
三六九	一	「證書」ヲ「證書」トス	四九五	一	「憲兵」兵卒」ヲ「憲兵	七二九	八	「フエルドネル氏」ヲ「可
三八六	二	「證據」ヲ「證明」トス	五〇〇	一	「本犯」ヲ「主犯」トス	七二九	八	「トス
三八七	四	「三十年」ヲ「三十七年」	五一三	六	「之ニ」ヲ「之」トス	七六八	八	「(三)ヲ(二)トス

### 近刊豫告

法學博士 高橋作衛著

平時國際法要領

戰時國際法要領

漢文 平時國際公法

漢文 戰時國際公法

平時國際法理先例論

東京帝國大學教授  
法學博士

高橋作衛先生著

(訂正五版)

# 平時國際法論

全一冊

洋裝脊皮上製本  
紙數千〇七十頁  
正價金參圓  
小包料金拾五錢

本書の特色は **最新の法理** を説明するに **正確な學說と先例** とを以てせるに在り又每章の後に

**問題** を掲げて要點を示し且つ一々 **参考書** と **術語** の如きは原文を挿入し **定義** 等の如きも成べく

原文を挿入せりされば必要の場合には之によりて原本に溯り濫奥の原理を探究し得べく又初學の士受驗者も之によりて綱要を知るを得べし文章は博士の執筆にかゝる其流暢明亮なること喋々を要せず

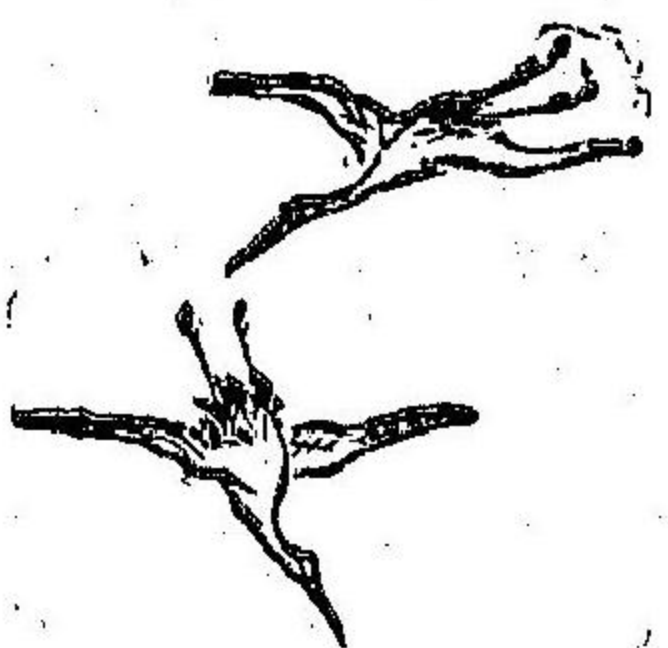
法學博士

高橋作衛先生著 (訂正再版)

# 國際法理先例論

戰時之部

紙數九百五十頁 正價金貳圓五拾錢 小包料金拾五錢



國際法の著書多きも **先例** を集めたるもの無きは識者の遺憾とする所なり本書は高橋博士が大學院在學中、艦隊の法律顧問として日清戰爭に従軍中并に歐洲留學中次第に蒐集せられたる結果にして **百數十件** の實例を分類列舉し先例集としては本邦 **唯一** の著書と云ふも過言に非ず本書は先づ何人も解し得べき大體法理を掲げ次に専門家にも参照となるべき諸學說と各國法規を掲げ終りに古來の先例を擧げて法理を證明し困難なる實地問題も本書を繙けば忽ち氷解すべく研學者、實務家、通商航海業家等の座右に備ふべき良書なり



國際法外交論纂  
法學博士  
高橋作衛先生獨力刊行  
第一

第二

英船高陞號之擊沈

全一冊  
菊版美本  
正價金四拾錢  
郵税金六錢

滿洲問題之解決  
七博士意見書起草顛末  
滿洲問題研究錄

菊版美本  
正價六拾錢  
郵税金六錢

第三

巴里宣言之由來及將來

近刊

法學博士 高橋作衛先生著

日露戰爭國際事件要論

全一冊  
菊版洋裝美本  
定價金五拾錢  
郵税金六錢

本書ノ内容大要  
 第一章 日露ノ争議 ○朝鮮ト滿洲 ○第二章 露國ノ通牒 ○「ワリヤーク」艦長ノ言 ○奈古浦丸五洋丸九州丸ノ擊沈 ○赤十字旗事件  
 第三章 猶豫阻礙 ○封鎖 ○「クリミア」戰事ノ例 ○第四章 仁川港ニ於テ露國水兵ノ救助 ○英佛伊艦長ノ抗議 ○第五章 新聞通信  
 ○無線電信 ○船ノ探偵 ○巴里ノ實例 ○第六章 機械水雷ノ布設 ○公海ト領海ノ差 ○著者ノ意見 ○歐米諸新聞等ノ意見 ○第七章 紅海ニ於テ露艦○蘇士運河ノ入口 ○佛國ノ行爲 ○石炭供給問題 ○「マンヤニール」號事件 ○第八章 禁制品 ○日本ノ主義 ○露國ノ主義 ○英國慣例 ○萬國々際法學會ノ決議 ○第九章 石炭ニ關スル露國ノ矛盾 ○棉花 ○南北戰事ノ例 ○艦船ノ賣込 ○日進奉日 ○第十章 郵便船ノ特權 ○「オシリス」號 ○英國主義 ○佛國主義 ○英國主義 ○蘇士運河 ○「ダーダネル」海峽 ○芝罘ト老鐵山トノ無線電信 ○第十一章 朝鮮ノ中立 ○滿洲ノ地位 ○租借地ノ性質 ○戰勝ノ効果

本書ノ目的  
 日露戰爭開始以來起リタル國際法上ノ問題多シ其中英國「ローレンス」博士ノ已ニ論評セル最必要ノ問題ヲ採リ其眞理由ヲ研究シ歐洲學者ノ觀察ヲ邦人ニ紹介スルト同時ニ歐洲學者ノ誤謬ヲ匡正スルヲ目的トス

本書ノ體裁  
 行文平易流暢ニシテ至難ナル問題ヲ極メテ容易ニ了解シ得ベシ

吾人ハ何故ニ戰ヘルカ又戰爭ノ際起ヘタル問題ノ如何ナル性質ナルカハ國民トシテ知ラザルヲ耻ヅベシ本書ハ日露戰爭ノ際起リタル國際事件ノ法理ヲ平易ニ解キタルモノニシテ政治家、教育家、法律家ハ勿論國民トシテ必ズ一讀スベキ良書ニシテ書室ニ備ヘ置クベキ高尚ノ書ナリ

1/9/41

# 國法國學第一編 憲法篇

全一冊

洋裝皮金文入字 紙數七百頁  
正價金貳圓 內地小包料拾五錢

(第二版)

## 清水澄先生著

學習院教授私立各大學講師  
法學士

一本書は當代國法學界の明星として夙に出  
藍の譽ある法學士清水澄先生の手記せられ  
たるものなり

一本書は深遠なる憲法典を精密に類別釋明  
せられたり

一本書は從來國法學者の宿題たる疑問を明  
晰なる頭腦と雄健なる快筆とに依り悉く之  
を闡明せられたり

一本書は學習院教授として數年獨逸へ留學  
し最も進歩せる國法學の法理を審究せられ  
歸來復た同院教授として將た府下各私立大學の講師とし  
て多年研鑽の考案に依り論述せられたるものにして一讀  
其要義を記するに容易ならしめたるは坊間の著書に曾て  
其比を見ざる所なり

法學士 松原一雄先生著

# 新刑法論各汎論

全一冊  
紙數四百拾四頁  
製本脊皮金字入  
定價金壹圓五拾錢  
內地小包料金拾錢

我國現今の刑法學は過渡時代にあり現行刑法將に改正せられんとして改正草案既に世に公  
にせらるるガロー、オルトラン、プランシユ等佛國學者の呼聲漸く廣たれてリスト、フランク、  
オルスハウゼン、マイヤー等の學說今や將に學界を支配しつつあり本書は此の新趨勢を指  
導するものにして現行刑法を爬羅剔抉して餘蘊を辯難批評し併  
解釋論としては改正草案を辯論として獨逸流の學  
說を鼓吹して新刑法論の名に負むかざるなり  
判檢事諸君に  
は机上の益友  
たるべく辯護士諸君には座右必携の伴侶たるべく高等文官判檢事辯護士受験者諸士には最  
良の參考書たるべく一般國民には必讀の良書たるべし

著者は既に大法院に於て刑法を専攻し現に日本大學、專修學校等に於て刑法講義を擔任し且檢察事として刑法適用の實務に當り學說と實用との調和を謀

り本著は是等研磨の結果にして **日本**

**刑法の研究又は**

**小嶋傳先生著**

總則部

洋裝脊皮上製本  
紙數四百〇八頁  
定價金壹圓五拾錢  
内地小包料金拾錢

# 日本刑法論

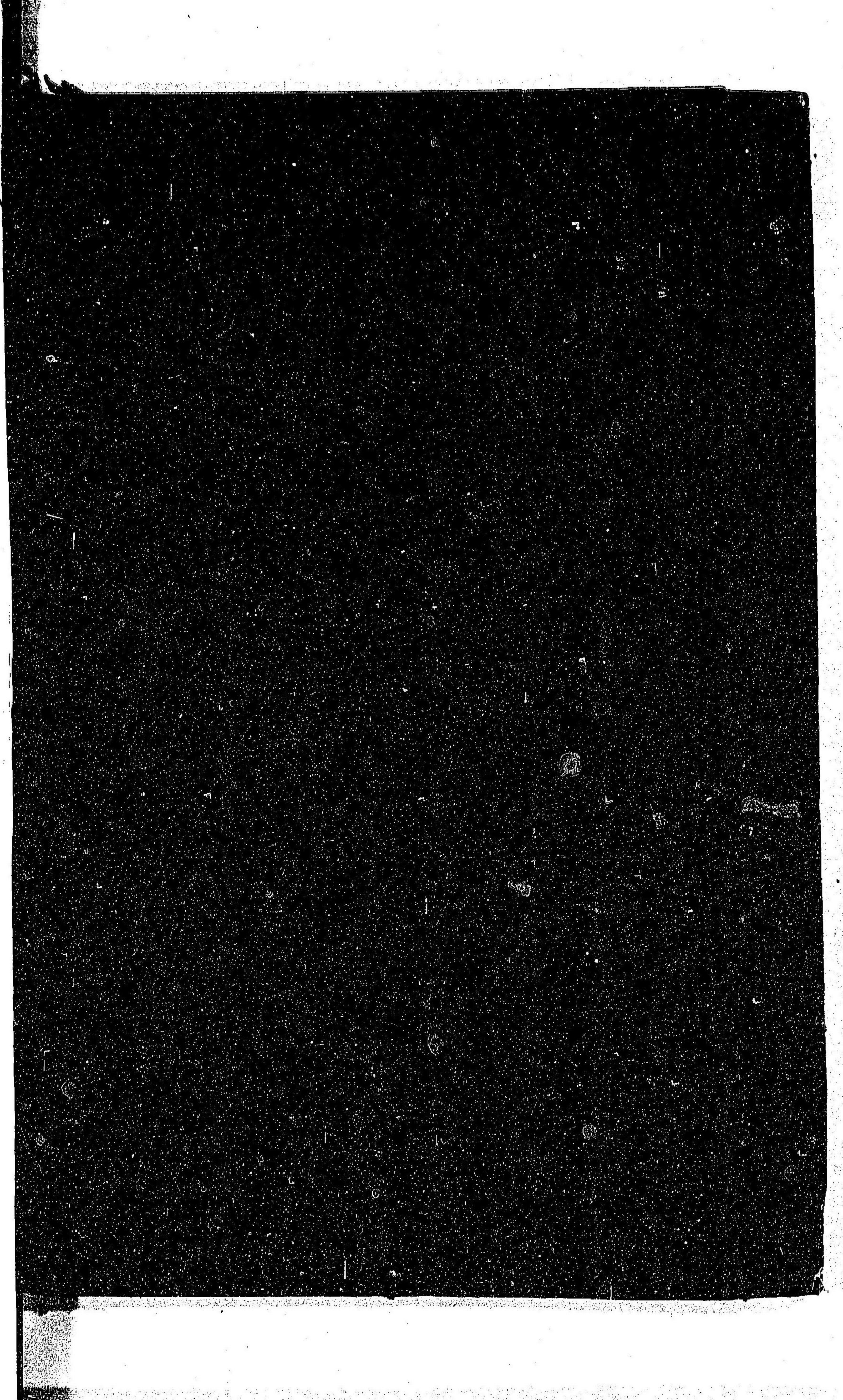
東京大學專修學校刑法講師 法學士

適用に従事する諸

君に對し最良の參考書

は勿論文官高等判檢事辯護士の  
受験者諸士には必讀の良書なり

711  
832





44

332

